

誤飲の対処法②

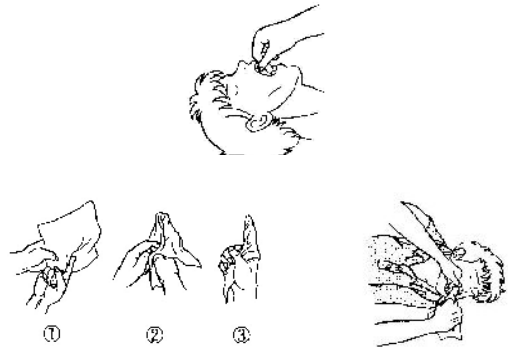
子どもが次のような様子なら、何かを誤って飲んだり、のどにつまらせているかもしれません。

- 突然、顔色が悪くなった
- 突然せき込んで、呼吸が苦しそうになった
- 突然、吐き始めた
- 突然、泣き始めた

まずは何を飲んだかを確認しましょう。

【口の中の異物の取り出し方】

- ① 親指と人差し指を交差させて、親指を上
の歯に、人差し指を下の歯に当てて、ひねっ
て口を開く。異物の様子を口の奥まで見る。
- ② 指にハンカチやガーゼなどを
巻きつけ、口の中の異物をかき出す。



【気管内に入った異物の取り出し方】

気管内に物を詰まらせると呼吸が困難になりますので急いで処理しなければなりません。咳き込んでいたり、呼吸が苦しいようでしたら、先ずはかせることが必要です。

赤ちゃんの場合

片手で、赤ちゃんの背面から赤ちゃんのアゴをささえながら、赤ちゃんの頭が前方斜め下方の位置になるように抱え、もう一方の手で赤ちゃんの背中（肩甲骨の間）を平手で数回たたく。



幼児の場合

幼児の背面に回り、幼児のわきの下から両手を入れ、抱え込むように幼児の腹部の前で手を組む。この位置から幼児の腹部を上に向かって圧迫する。（赤ちゃんと妊婦はこの方法を行ってはならない。）



【食道・胃内に入った異物は】

飲んだ異物により、処置の方法が違うので注意が必要です。

体に吸収されない異物の場合

コイン、指輪、ボタンなどの固形物は48時間以内に大便と一緒に出てくるので、大便を観察して確認する。なかなか出てこない時は医師の診察を受ける。

体に吸収される異物の場合

毒性が少ない異物の場合

石鹼、クレヨン、消しゴム、絵の具、粘土、工作のり、台所洗剤などは医師と相談し、全身状態に注意しながら顔色、機嫌、呼吸や吐き気などを観察する。変化があれば病院で受診する。

毒性のある異物の場合

異物の種類に合わせた適切な事前処理が必要です。はかせると二次的な傷害を生じるものもあり、注意が必要です。

大きく分けると次の3つの処置の方法がある。

① はかせず何も飲ませないで大至急病院へ

灯油、ガソリンなど揮発性物質、強酸性、強アルカリ性洗剤は少量でも非常に危険ですので救急車を呼び、大至急病院へ行く。

② 水を飲ませ、はかせてから至急病院へ

ナフタリン、パラジクロロベンゼン（トイレ消臭剤）などの薬物はこの処置で対応する。牛乳は飲ませるはいけません。

③ 水か牛乳を飲ませ吐かせて病院へ

他の大部分の薬物はこの処置で対応する。

尚、次の中毒110番は中毒に関する質問に年中無休24時間体制で相談に答えてくれます。（有料）

中毒 110 番

■大阪中毒110番（365日 24時間対応）

0990-50-2499（ダイヤルQ2：通話料と情報料（1件300円）がかかります）

■つくば中毒110番（365日 9時～21時対応）

0990-52-9899（ダイヤルQ2：通話料と情報料（1件300円）がかかります）

■タバコ専用電話（365日 24時間対応、テープによる情報提供：一般市民） 無料

072-726-9922